

# 退職にあたって



那須町長  
高久 勝

私は4月6日の任期満了をもって町長を退任いたします。昨年9月、3選を目指して町長選挙に出馬する正式表明をした2日後の早朝に脳出血で倒れ、約3カ月間、入院とリハビリに専念せざるを得ない状態となりました。この間、町民の皆さまには多大なるご心配やご迷惑をおかけし、この場をお借りして改めてお詫び申し上げます。皆さまの不安と混乱を解消するためにも、一刻も早く完全復帰を果たしたいと懸命の努力を重ねてまいりましたが、回復が思わしくないため、今限りで身を退く決断をした次第です。

町長在任中は、町の発展と町民生活環境の向上、住民福祉の増進、基幹産業の振興に懸命に努めるとともに、町の未来に向けた様々な種子を蒔いてきました。それがようやく芽を出し、実を結びつつある時期に來ています。その姿を見ることなく、このような形で退任することは誠に無念の極みですが、2期8年間にわたり、大過なく今日を迎えることができたことは、町民の皆さまのご支援とご協力の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

顧みますと、この8年間は多難の連続でした。町長就任約1年後の平成23年3月11日、東日本大震災が発生し、本町でも甚大な被害が発生しました。発

災直後から職員と一丸となって復旧と復興に心血を注ぎ、町民の皆さまと国や県等の関係機関のご支援とご協力により、災害復旧工事等が無事完了することができました。

しかしながら、東日本大震災に伴う東京電力福島第1原子力発電所事故に伴う放射能汚染問題については、日本国民が初めて経験する大問題となり、原発から90km以上離れている本町でも、住宅汚染や農畜産物、林産物などへの直接被害をはじめ、基幹産業への風評被害、あわせて人体への内部被ばく不安など、計り知れないほどの被害となりました。本町は、県内でもいち早く小中学校々庭や保育園等の園庭の表土除去を、独自で敢行するとともに、福島からの避難者の受入れも実施しました。その後、町独自の住宅除染の実施やホールボディカウンターの導入、甲状腺や尿、母乳の無料診断体制の確立など、町民の皆さまの不安払拭に努めました。また、各種キャンペーンを実施し、基幹産業の風評被害払拭のために全精力を傾注してきたところですが、未解決問題が山積しており、この時期に退任することは、慙愧の念に堪えないところであります。

在職中には、小中学校の適正配置も推進いたしました。町立小中

学校の統廃合はおよそ半世紀ぶりの大事業となったため、保護者の皆さま、地域の方々には、さまざまなご不安をおかけしました。この適正配置計画も、最終的には関係者の皆さまのご理解により、ほぼ完了することができました。何よりも喜ばしいことは、新生小中学校の児童生徒たちが、学業とスポーツ両面において、これまで以上の成果を残し活躍を続けていることです。今後さらに活躍してくれるものと確信しています。

そして町の魅力を切り拓く新たなツールの一つとして、サイクルスポーツの定着を実現しました。全国的にサイクルスポーツによる町おこしが注目されるようになった昨今、日本人気があると言われている「那須高原ロングライド」の開催や各種レースの誘致、地域密着プロサイクルロードレースチーム【那須ブラーゼン】の誕生、更に、広島県尾道市とサイクリングパートナー協定を締結したことに、より、那須の名声や注目度を不動のものとすることができました。このことは、本町への誘客アップと好感度アップに大きく寄与するものと信じて疑わないところであります。

加えて、茨城県大洗町に続き福島県会津美里町と友好都市協定を締結し、両町民の交流促進と災害

時における相互支援体制の確立等も実現いたしました。

結びに、4月からは、新町長の下で町政運営がされるわけですが、本町の限らない発展を心からご祈念申し上げますとともに、新町政に対しても、皆さまの尚一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。退任にあたってのごさつとお礼の言葉といたします。

平成30年4月5日  
那須町長 高久 勝



尾道市とのサイクリングパートナー事業に関する協定(28年10月19日りんどう湖口イヤルホテル)